



平成 21 年 3 月 23 日

各 位

会社名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘
(コード番号2369: 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理本部長 門井 豊
(Tel: 03-6744-2882)

メディビック、自社開発パッケージソフトウェア第一弾販売開始 ～研究・開発・製造の効率化を支援する配合設計データベース・システム～

このたび、当社の子会社である株式会社メディビックは、PGx 試験支援やインフォマテイクス事業で培ってきたシステム構築技術とデータハンドリング技術を活用して開発したパッケージソフトウェア『MDSS 配合設計データベース』の販売を開始致しますので、下記のとおりお知らせ致します。

記

今回、販売を開始致します『MDSS 配合設計データベース』(以下、MDSS[Mixture Design Support system]) は医薬品から食料品、工業製品といった様々な分野での製品開発における配合設計・実験設計に関わる研究・開発・製造の現場向けに開発されたもので、作業効率化やコストダウン、ノウハウの散逸防止といった効果を目的としてご利用頂くためのシステムです。

当ソフトウェアではデータの蓄積・検索・管理といった機能に加え保管したデータからの数値モデル*1による配合情報のシミュレーション機能や、実験計画法*2に関連する機能などの追加機能を追加リリースする予定です。これらにより研究・開発・製造の更なる高度化、効率化などに貢献できるものと考えています。

1. システムの特徴

MDSS は配合デザイン・実験設計向けの「原料」「プロセス」「工程」「評価結果」といったデータを一元管理できる情報管理システムで、医薬品製造業、化学合成原材料製造業、工業製品製造業、食品製造業等多岐にわたる分野でご活用頂けます。

利用するユーザーを熟練者から初心者までと幅広く想定し、配合デザイン・実験計画を行うすべての技術者向けに開発されたもので、一覧性に長けたインターフェイスを採用することにより、原材料、プロセス、実験結果などのデータを誰でも簡単に入力できる機能を実現しました。また蓄積したデータを比較し、多彩なグラフ機能で確認することができます。

検索機能では簡単かつ詳細な条件設定方法により、蓄積されたデータを効率的に検索・閲覧することができます。また画面に表示されるデータは簡単に EXCEL へのデータ出力も可能となっており、今まで研究・開発・製造現場で利用されている業務形態への柔軟な対応も可能となっています。

さらに、実験の進捗を一覧で確認出来るため、部門長などプロジェクトを管理される方のタスクも軽減出来ます。

これらの機能を元に配合部門の運用におけるデータ散逸や作業時間の短縮などのトータルサポートをご提供致します。

【画面イメージと機能】



- プロジェクト管理機能
- 工程設定機能
- マルチ検索機能
- 原料設定機能
- 評価設定機能
- 検索結果一括閲覧機能
- プロセス設定機能
- グラフ比較機能
- マスター管理機能

2. 期待される本システムの導入効果

研究・開発・製造の現場では、全社ベースでの実験データ管理もしくは共有化があまり行われていない事例が多く、そのような場合以下のような問題の改善が迫られています。

- ・熟練した技術者の勘に頼ってしまっている。
- ・上記問題の影響として、後継者への技術移管が困難になっている。
- ・過去の実験・製造の履歴を調べることができない。
- ・データが散逸し、管理検索や追究に時間とコストがかかってしまう。
- ・データの共有化が困難な状況である。
- ・管理者が研究・実験・製造の進捗状況をリアルタイムに把握できない。

【MDSSの機能と作業フロー】



MDSS ではこれらの問題に対し、データベース化やシミュレーション・分析機能を利用して頂くことにより「技術の見える化」を実現しこれらの問題解決のお手伝いを致します。

3. 当社の業績に与える影響

平成21年12月期の連結業績に織り込み済みですので、変更はありません。

(用語解説)

*1 数値モデル

既存の実験データなどをもとに収集した入力データと結果データとの関連を解析し、数式や複雑なパラメータを基に入力データから結果を予測する仕組みを指します。簡単なデータの組み合わせでは、単回帰モデルなどが使用されますが、入力データや出力データが複数種類存在する場合は、重回帰分析、PLS(Partial Least Squares)、ファジー推論 (Fuzzy Inference)、Neural network、MTS(Mahalanobis-Taghchi System)といった多変量解析の手法が用いられる場合が多くあります。

*2 実験計画法

研究、開発などで繰り返し行われる実験において、合理的かつ効率的に実験の結果を評価するために、分散分析を前提とした実験の計画の手法と、実験設定と結果との関係解析の手法を体系的に纏めたものです。当初 Sir Ronald Aylmer Fisher が農学試験から着想を受け発展させたものですが、今日では農学に留まらず、工学、医学、社会心理学など多方面に及ぶ分野にて活用されています。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社メディビック

システム・解析グループ 谷合

Tel: 03-6744-2554

株式会社メディビックグループ

当社グループは、個人の体質に合わせて副作用の少なく効果の高い薬を処方できるテーラーメイド創薬の実現を目指す企業です。具体的には、医薬品開発や研究などを行う製薬企業や研究機関などに対し、個別化医療やテーラーメイド創薬を推進するサービスや製品を提供しています。

薬の効き目の個人差を示す体質は、遺伝子によって決められています。個人の遺伝子タイプが分かれば、体質に合ったより効果の高い薬を選択し処方することができます。また、投薬前に効果を確認することで、副作用も最小限に留めることができます。そのために、製薬企業では遺伝子と薬の関係を調べて医薬品開発をするようになってきています。そのために必要となるのが、PGx (ファーマコゲノミクス) です。

当社グループは、PGxを総合的・戦略的に支援できる体制を整えています。当社グループが独自に築いた、バイオ最先端の技術・情報網、そして医療機関・製薬企業などとの幅広い人的ネットワークの活用により、PGxに対するニーズを的確に掴み、顧客の要望に適した満足度の高いサービスを提供しています。

また、これまでに蓄えてきたノウハウを個人向け健康管理支援サービスとして「DNAプライ

ベートバンク」サービスも展開しております。

当社グループは、個の医療と個の健康管理を総合的・戦略的に支援できるユニークな存在として実績を積み重ねることにより、圧倒的に優位なビジネスポジションを築いています。

当社グループに対する詳細な情報は、www.medibic.com をご覧ください。

以 上